

白根北中学校
学校だより

教育目標
自立 友愛 勇気



式辞

新潟市の今年の桜は、平年よりも八日早く開花したと報道されています。毎年春の訪れは、雪国に住む私たちにとっていつの年も心が浮き立つようです。

本日、ご多用の中ご来賓の皆様をはじめ、たくさんの方の保護者の皆様においでいただき、入学式を挙行できますことを教職員一同、心より感謝申し上げます。

さて、新入生の皆さん入学おめでとうございます。いよいよ今日から中学生ですね。私は折に触れて、皆さんの先輩たちに伝えていることがあります。それは皆さんは遠くない将来、大人の仲間入りをするという

ことです。今はまだ、ピンとこないかも知れませんが、中学校は小学校の半分の三年間です。きっと三年後、多くの人が時の経つ早さを実感することでしょう。もちろん、私自身も皆さんのお家の人も、そしてここにおいでいただいているご来賓の皆様、先生方も実は昔は子どもでした。

そこで、皆さんの入学にあたり、少し趣向を変えて、川柳を引用しながら、これから多感な時期を迎える皆さんと、昔は子どもだった大人の素直な気持ちを紹介します。ここで紹介するのは『家族川柳』とあって子ども、あるいは大人が詠んだ句に応える形で五、七、五、十七文字の句を詠んで気持ちを伝え合ったものです。



例えばこの春休み中、このようなご家庭はありませんでしたか。まず大人から、

「これ娘 もついい加減 起きなさい」

する場面もあるでしょう。そんな時にはこんなやりとり。今度は子どもから、

「これからも 相談相手 よろしくね」



これに対して子どもから、

「大丈夫 四月になれば 起きるから」

これに対して大人は大人で、

「いぢらこぞ 話し相手 よろしくね」

また、これから始まる勉強では、うまくいかないこともあるでしょう。そんな時はこんなやりとり。

大人から、

中学生になると、きっとお家の人にとっても頼もしい話し相手になってくれるはずですよ。

そして一日の終わりには、こんな光景が見られるといいですね。

大人から、

「よく似てる 国語と美術が 好きなこと」

「よく似てる 数学と体育は 苦手だよ」

それに対して子どもから、

「お帰りの いつもの声」

「ただいまで 今日の頑張り 伝わるよ」

今ここで偉そうに話している私自身、中学生時代は、国語と理科が苦手でした。

いかがでしょう。これまでのいくつかの場面で、皆さんも、思い当たることがあるのではないのでしょうか。



